

[様式14]

(対象事業: 1 子どもを対象とした事業およびその開発にかかる事業

3 ミュージアムを核とした地域の人材・組織の育成・連携・活用に係わる事業)

事業名: ヤングボランティアとの協働による体験キット開発事業

事業者名: 徳島県立博物館

連携事業館名: 徳島県立近代美術館、徳島県立文書館徳島文理大学、阿南工業高等専門学校、徳島博物館研究会

住所: 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園内

TEL: 088-668-3636

FAX: 088-668-7197

HPアドレス: <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp/>



①施設概要

徳島市郊外の文化の森総合公園内に配置された文化施設のひとつ。人文系（考古、歴史、民俗、美術工芸）、自然史（動物、植物、地学）の7分野からなる総合博物館。

②事業の意図目的

中期活動目標（平成16年9月策定）をもとに当館で取り組んできた博物館評価、平成17年度芸術拠点形成事業「元気な博物館づくりプロジェクト」によって見えてきた課題、平成17～18年度に試行してきた公募ボランティアによるイベント企画運営の成果と課題を踏まえて、若者との連携による親しまれる博物館づくり、とくに人文系資料をもとにした子ども向け体験キットの開発・活用を目指した。

③事業概要

若者によるボランティアグループを組織して、職員や指導者ととともに、収蔵資料をベースにした新しい体験キットを開発し、その活用実践を行った。

①大学生等、20歳前後の若者によるボランティアチームの編成（徳島文理大学、阿南工業高等専門学校）。ただし、若者だけではうまく進まなかったため、一般ボランティアに支援を要請し、学生を中心としながらも、合同で活動するかたちとした。

②体験キットの開発

③合同ワークショップ

④評価とまとめ

⑤事業実施状況の情報発信

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 ~~テキスト~~ ~~ワークシート~~ その他（体験キット（印刷物、シリコン型、ゴム印）、チラシ）

作成した報告書等

ビデオ（

冊子（

その他（パンフレット

⑤参加者状況

ボランティア参加者人数 9人（阿南高専5、徳島文理大4）

（これに一般ボランティアが合流・サポート。終了時9人）

ワークショップ参加者人数 延べ1,313人

内 訳 小学生429、中学生14、高校生12、その他（幼児を含む）858

(1) 事業の実施状況について

この事業は、館内の分掌により設置されたボランティア委員会（人文課・自然課の学芸員4名、普及課職員1名）が担当し、また、館外から一森勇人氏（阿南工業高等専門学校）、吉野達也氏（徳島文理大学）、松下師一氏（松茂町歴史民俗資料館／徳島博物館研究会）、友井伸一氏（徳島県立近代美術館）、金原祐樹氏（徳島県立文書館）に、指導者として協力をお願いした。

●ボランティアグループの編成（7～8月）

当初、阿南工業高等専門学校、徳島文理大学の学生9名によるボランティアグループを編成し、キット開発に取り組み始めた。しかし、学生だけではうまくイメージがつかめず、具体化しづらいという問題が生じた。そこで、別途活動予定で公募していた一般ボランティアに学生の支援を求め、合流して活動を進めることにした。

●キットの開発・制作（8～2月）

体制が固まってからは、キットの対象年齢別に3班（就学前児童、小学校低学年、小学校高学年）に分け、それぞれの責任者には学生を充てた。以後、班単位でキットの内容を検討、試作していった。

キットの見通しがついてきてからは、これらを活用したワークショップ（イベント）の開催を目標として、その運営を考えながらの活動となった。

制作したキットは、徳島の郷土芸能として知られている人形浄瑠璃の頭をモチーフにした福笑い（就学前）、常設展示室の展示資料をもとにした模型のレプリカづくりと実物さがし（低学年）、常設展示室の展示資料をイメージしたスタンプ（ゴム印）とスタンプ用のシート（低学年）、徳島城の門をイメージしたポップアップ模型（高学年）である。資料をうまく活かし、工作としての楽しさも盛り込んだキットが仕上がった。



検討・試作中の様子

成果品の紹介

就学前児童対象

どんな顔になるKASHIRA

徳島の郷土芸能として有名な人形浄瑠璃の頭(かしら)をモチーフにした福笑いです。パーツを切り抜くので、工作としての楽しさもあります。



小学校低学年対象

かたどって似たものさがし

埴輪や瓦など、常設展示室に展示されている資料の模型から型取りしたシリコン型、資料の写真と簡単な説明の載っているカード、キーホルダーで構成されています。

シリコン型を使ってレプリカづくりをし、その上でレプリカに対応する資料をさがします。見つかったら、レプリカをカードと照合し、キーホルダーに取り付けて完成します。



スタンプで展示づくり

常設展示室に展示されている資料をイメージした手彫りゴム印、スタンプシートで構成されています。

シートにゴム印を捺していくと、オリジナル展示室ができます。クイズと組み合わせるなど、幅広い使い方ができそうです。



小学校高学年対象

徳島城へようこそ

常設展示室にある徳島城鷲の門の原寸大模型をイメージしたポップアップ模型です。シートからパーツを切り取ったら、折ったり、貼ったりしてできあがります。武士が出入りするという仕掛けもあります。



●合同ワークショップ (イベント) (2月11日)

ワークショップは、各班で制作したキットの初披露の機会であり、この事業の最後の山場でもあった。今までのボランティア企画イベントを踏襲して「博物館Vキング」の

名称のもと、常設展示室で開催した。

広報用のチラシは、文理大生グループがデザイン原案を作成し、全員で発送準備にあたったほか、メンバーそれぞれに広報活動に積極的に取り組んでもらえた。当日の運営には、ボランティアと職員が協力して、各班単位でコーナーを開設した。ただし、年齢等にはこだわらずに来場者には自由にキットを試してもらった。



ワークショップの様子（福笑い）

1,313 人の来場があり、大盛況だった反面、キットの活用面では十分な対応ができなかったコーナーもあり、課題を残した。

●評価とまとめ

一過性の活動に終わらせないため、また、事業の質を高めるため、指導者にはできるだけ活動に入ってもらい、また、計3回の指導者会議を開催し、活動の状況や将来展望も含めた検討を行った。ボランティア自身の評価については、ワークショップ終了後に反省会を持った。

●インターネットによる発信

当館ホームページに事業の進捗状況を紹介するページを開設し、随時、更新した。

（2）地域との連携について

これまでのボランティア事業において協力関係があり、しかしながら、学生にとって博物館が縁遠いという性格の2校との連携を柱にした。また、当館が立地する文化の森で、それぞれにボランティアや県民主体の活動に取り組んでいる近代美術館、文書館の立場からのアドバイスを得た。さらに、徳島博物館研究会との協力により、各地の学芸員への発信や意見交換の機会を得ることもできた。

（3）成果物について

●ワークショップのチラシ

●キット（印刷物）

- ・福笑い…シート4種類

- ・スタンプシート
- ・模型レプリカと実物資料の対照用の写真入りカード（ハガキ）
- ・ポップアップ模型シート
- キット（利用者共用のため配布しない）
 - ・レプリカづくり用の模型とシリコン型
 - ・手彫りのゴム印
- 事業経過と成果をまとめたパンフレット（6 ページ）

（４）参加者の反応

●ボランティア（とくに学生）

キットの開発、ワークショップの実施など、すべて手作りで取り組むことに新鮮な楽しさがあったという、満足感を示す意見がある一方、拘束期間が長期になることから、負担に感じる面もあったという声もあった。

また、チラシのデザインや、ワークショップには大勢参加があったので、混乱を避けるための工夫などの不足を指摘する意見が多かった。

●ワークショップ参加者

キット自体は素朴なものばかりで、設定年齢よりやや低い年齢の子どもや家族連れに喜ばれた。あまり人気がないのではないかと思っていた福笑いが意外に楽しまれていた。遊びの質の変化の中で、かえって新鮮だったようである。

レプリカづくりのように、材料が必要なものは制限を設けたため、不満を招いた部分があった。

（５）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

事業改善、若者とのかかわりの強化、子どもを対象としたキットの開発と、多方面に課題を広げた事業であった。結果的には、所期の目標を達成することができた。

まず、博物館評価を基礎にした運営改善と活性化策の実施という面では、評価をただけで終わらせずに、着実に向上を図っていくということを明確に位置付けた点で先進的な取り組みとなったと考えている。

また、意識的に若者との連携を図ることで、ボランティア全体、さらには博物館に対する刺激があり、相互の交流の中で相乗効果があった。若者とのかかわりの有効性を確信した。

さらに、あまり子どもに馴染みのなかった人文系の収蔵資料を、これまでにない視点からキット化することができ、親しみやすくする工夫も進んで大きな成果があった。

体験キットで 歴史学ぼう

徳島市内の県立博物館は、常設展示している歴史資料について、子供たちが楽しみながら学べる体験キットを製作した。徳島中央公園の驚の門をかたどったポップアップカードや、人形浄瑠璃の頭をモチーフにした福笑いなど、ユニークなアイデアが詰まっている。

県立博物館4種製作

埴輪模型作りや福笑い

体験キットは▽徳島城へようこそ▽かたどって似たものがし▽スタンブで展示づくり▽どんな顔になるKASHIRA（かしら）ーの四点。「徳島城へようこそ」は、巡るスタンブラーになって、主に定期的に開かれる子う」と話している。

供向けイベントで活用する。博物館の長谷川賢二学芸員は「歴史分野は恐竜などに比べて子供の関心を引きにくいのが、楽しいものができたと思

小学校高学年が対象で、A3判のシートに印刷された各部品を切り離して組み立てると、驚の門の立体模型が出来上がる。門から武士が出入するという細かな仕掛けも施されている。

小学校低学年用の「かたどって似たものさがし」は、収蔵品のミニチュア模型が製作できるキット。県内遺跡から出土した埴輪や銅剣などをかたどったシリコン製の枠に樹脂を流し込み、手のひらサイズの複製品を作ることが出来る。キーホルダーになるほか、出土場所や年代などを説明したカードが付いている。



県立博物館が製作した体験キット―徳島市内の同館

○テレビ，関連誌等

四国放送「530フォーカス徳島」

平成20年2月8日17時45分～17時46分（1分程度放映）

四国放送「県政広報番組 オンリーワン徳島」

平成20年3月2日10時55分～10時59分（4分放映）

文化庁月報471号「事例紹介：ボランティアとともに取り組む体験キットの開発」
ぎょうせい 平成19年12月25日発行